

# 委員会の意義がわからない状態から「意見を言うのが当然の会」に変貌

安全衛生活動の活発化は短期間に成し遂げられるものではない。鳥取県では、平成21年3月に生じた重大事故を契機に、10年以上の歳月をかけて改善を図ってきた。安全・衛生委員会のあり方についても見直し続け、当事者意識の高い委員会に変貌した。その取り組みのプロセスと成果を紹介する。

## 重大事故を契機に安全衛生活動を強化

「悲惨な事故を一度と起こしてはならない」

平成21年3月に職員が死亡する事故が発生して以来、鳥取県は安全衛生活動の強化を図ってきた。事故直後にはまず、全庁で緊急安全点検を実施。続いて、継続的に安全衛生活動を実施するための組織づくりに取り組む。しかし当時は、衛生面の取り組みが充実していた一方で、安全面には事業場によってばらつきが見られた。職員の安全衛生に対する意識も低かったようだ。安全・衛生委員会に關しても、十分に機能している状態ではなかったという。

そこで、本庁の衛生委員会事務局である総務部福利厚生課(現・職員

支援課)が中心となり、23年度まで

の3年間で「安全衛生の形や仕組みづくりと意識啓発」に取り組んだ。具

体的には、各職場における安全衛生体制と担当者の明確化、職場巡視の

チェックリスト作成と安全管理士による助言、専門家を講師とする安全衛生教育などである。全職員が利用で

きる「安全衛生データベース」も独自に構築し、安全衛生に関する周知を

図ったという。職員支援課課長補佐の田住利晃さんは次のように話す。

「この3年間で、安全衛生活動活性化に向けた取り組みの第1期となりました。職場巡視チェックリストの中には、『必要な会話はありますか』『サポート体制はあるか』などのサポートに関することも取り入れました。

データベースは、体制や担当者の明確化と周知が目的でしたが、以降も充

実・発展を図り、今では県の安全衛生活動の基本ツールとして全職員で情報共有しています(図1)。

こうした取り組みにより、活動推進の体制が整備され、職員の意識にも徐々に変化の兆しが見えてきた。

## 委員会開催の定着のため本庁事務局がオブザーブ

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

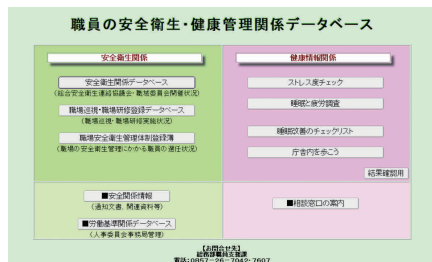
しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

しかし、体制を整備することはできても、活動の内実を伴うことはできなかつた。そこで24年度からの3年間を第2期として、安全・衛生委員会開催の定着」に重点的に取り組んだ。鳥取県には、各地区の総合事務所や地方機関など計9か所の拠点・事業場(図2)があるが、法令で定められた委員会開催の頻度に満たない

図1 安全衛生データベースの画面例



データベースは随時改善され、現在は、安全・衛生委員会の開催状況はもちろん、安全衛生や健康管理に関する各種情報が格納されている

事業場が多かつたからだ。それゆえに活動に対する職員の理解も不十分だつた。

そうした状況を受けて福利厚生課は、委員会開催の必要性や運営方法などの資料を作成し、各職場に配付した。ところがアンケートをとると、特に事務系職員から「イメージがわからない」という意見が多い。福利厚生課

はなんとかしよつと、取り組みが遅れている委員会にオブザーバーとして参加。議題の決め方、会議資料の内容、進行の仕方などのノウハウを助言するとともに、委員会の必要性について職員と話し合つた。

また、好事例を横展開して活動の底上げ・標準化を図るため、総合安全衛生連絡協議会を設置し、各事業場の取り組みを報告する場を設けた。

「それまでも同様の組織はありましたが、本庁以外の事務所や職員が入っていませんでした。それでは横展開ができないので、全庁的な体制にしました(田住さん)。

併せて、開催回数を段階的に上げる目標も設定。その開催状況はデータベースに登録することとした。

さらに、27年度からは第3期の取

International Journal of English Studies

V						M:	
O		fæ @	æ be		0	z	u
	æ					0	fpz
	e					y	u
	h				0	0	0
	IPA'						
	PEP						
				o	o		
		o	o	o	o		

Figure 1

International Journal of English Studies

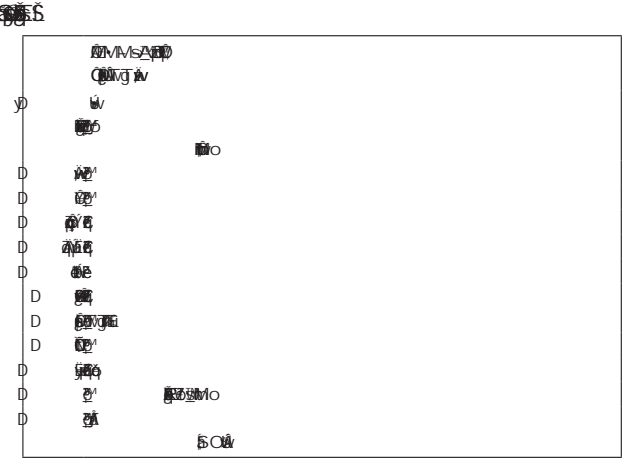


Figure 2

International Journal of English Studies



International Journal of English Studies